



そして、元気にもなる
授業研究会！！

授業者も、参観者も、授業力が向上する

授業研究会



「子どもの学ぶ姿」を大切にしたい授業研究会を紹介します。

「子どもの学ぶ姿」とは…

授業のねらいや目標に沿った授業中の子どもの姿のことです。

子どもは何をどのように
学んだのか。



授業の主体者は子ども

何を習得したのか

何につまずいてい
たのか



どのようにつまずい
ていたのか

ポイント！

複数の教員で、ねらいを明確にした授業づくりを行うことにより、目標と評価の一体化を図りながら、学習評価の妥当性や信頼性を高める授業づくりができるようになります。

文部科学省の新しい学習指導
要領改訂の視点でも、「何ができる
ようになるか」「何を学ぶか」
「どのように学ぶか」をキーワ
ードに、育成すべき資質・能力を育
む観点からの学習評価の充実の
必要性を述べています。



学習指導要領改訂の視点	
<p>新しい時代に必要となる資質・能力の育成 (「何を知っているか、何ができるか」(認知・技能)・ 各教科等に関する基礎的知識や技能など、身体的技能や芸術表現のための技能等も含む。 (「知っていること」(知識)と「使えること」(思考力・判断力・表現力等)・ 主体的・協働的に問題を発見・解決していくために必要な思考力・判断力・表現力等。 (「どのように社会・世界と関わり、よかれ・人生を送るか」(人間性や学びに向かう力等)・ (「やむを得ない状況下で方向性を決定し、適切な行動や態度等」(以下のようなものが含まれる。 ・主体的に学習に取り組む態度も含めた学びに向かう力や、自己の感情や行動を統制する能力など、いわゆる「非認知」に関するもの。 ・多様性を尊重する態度と互いの良さを生かして協働する力、持続可能な社会づくりに向けた態度、リーダーシップやチームワーク、感 性、確しき思いやりなど、人間性に関するもの。)</p>	
<p>何ができるようになるか</p>	
<p>育成すべき資質・能力を育む観点からの 学習評価の充実</p>	
<p>何を学ぶか</p> <p>育成すべき資質・能力を踏まえた 教科・科目等の精選や目標・内容の見直し ● グローバル社会において不可欠な英語の能力の強化(小学校 高学年での教科化等)や、我が国の伝統的な文化に関する教育 の充実 ● 国家・社会の責任ある形成者として、また、自立した人間として 生きる力の育成に向けた高等学校教育の改善(地理歴史科にお ける「地理総合」概念融合)、公民科における「公民」の改訂等、 新たな共通必修履修科目の設置や科目編成の見直しなど抜本的 な編制を行う。)等</p>	<p>どのように学ぶか</p> <p>アクティブ・ラーニングの視点からの 不変の授業改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 教科・科目・授業という学習プロセスの中で、問題発見・解決を主体 に高い学びの達成が実現できているかどうか ● 進歩的な知識やスキルとの相互作用を通じて、自分の考えを表現し る、知識的な学びの達成が実現できているかどうか ● 子供たちが発達しを持って学びに向かい、自分の学習活動を自 立して進めようとする、主体的な学びの達成が実現できているかどうか

授業研究会の進め方



1 事前検討

チームをつくる

【例】 ○児童生徒が関係する学年、交流及び共同学習をしている学級等からなるチーム
 ○ベテラン、中堅、若年、初任等の幅広い経験からなるチーム
 ○教科の専門性を取り入れたチーム 等
 学校の状況に応じてチーム編成を意図的に組んでいくとより効果的な授業研究会となります。

始める前に…6つの留意点

<チームづくりの留意点>

- ①チーム全員が共同参画者となり、授業者と一緒に考える。
- ②協議しながら授業づくりができる適切な規模チーム編成にする。

<事前検討での留意点>

- ③授業者がイメージする単元・題材に関するメモ、略案があるとよい。
- ④批判的・否定的発言ではなく、「子どもの姿」で話し合う。
- ⑤事前検討を生かして指導案を作成する。
- ⑥話し合いを共有するために視覚化を図る。

授業づくり

□ねらいを焦点化する

「なぜ?」「どのように?」「何のために?」等の視点で話し合うことにより、「子どもに身につけさせたい力」(教師のねらい)が明確にできます。

□子どもの実態と照らし合わせる

ねらいに応じた児童生徒の実態や学習の積み重ねについて話し合うことにより、「子どもの学ぶ姿」に客観性が生まれます。

重要!

整合性があるか
チームで検討



可視化して整合性を図るためのお助けツール



フィッシュボーンダイアグラム

□単元全体を通した計画を立てる

「教師のねらい」「子どもの実態」「単元の指導計画と内容」との整合性を図ることで、何を学ぶ授業なのかが明確になります。

□評価規準・基準を設定する

重要!

- ① ねらいを基に、「学習に実現するための必要な力」と「子どもの学ぶ姿」を想定して、チームで出し合う。
- ② 観点別に整理し、さらに検討して評価規準を作成する。
- ③ それを基に一人一人の評価基準を設定する。

子どもの学ぶ姿と観点別評価

役割に応じて子ども自身が考える姿	学習を実現するために必要な力		
	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	知識・理解
1. 授業中の内容を振り返り、(学習)の振り返りをする。	「びっくり」「まさか」の表情を教師と確認している姿	間違っただけや平気な顔で話し合う時に、子ども同士がかわり取り頼む姿	「びっくり」「まさか」の知識を活用して本材や道具を調整している姿
2. 作中の疑問や不明点を挙げて、(学習)の振り返りをする。	疑問点を挙げて、(学習)の振り返りをする。	友達や教師からの聞きかたも受け止めて、(学習)の振り返りをする。	疑問点を挙げて、(学習)の振り返りをする。

つまり、その単元における身につけさせたい力を基に、観点別(「関心・意欲・態度」「思考・判断・表現」「技能」「知識・理解」等)に整理し文章化した評価規準を設定する。そして、子ども一人一人が授業の「どの場面」「何を」「どのように」「どの程度」学習することで「理解したか」を評価する評価基準を設定することが大切です。

□学習指導案をつくる

チームで共有した指導案ができる!

2 授業

□子どもの学ぶ姿を見る

実際の授業においては、事前検討で設定された評価規準・評価基準を基に、「どの場面で」「何を」「どのように」「どの程度」学んだかを、具体的な「子どもの学ぶ姿」として観察・評価することが大切です。また、複数の目で子どもの学ぶ姿を見返すために、授業を映像で記録すると便利です。

「できた」「できない」ではない…



評価規準や評価基準に沿った「子どもの学ぶ姿」その瞬間を見抜く！！

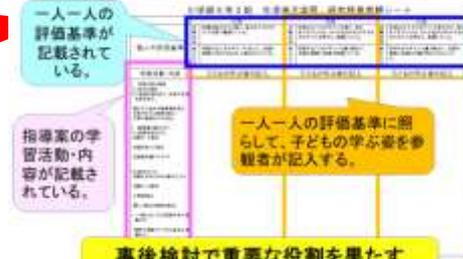
子どもがどのように考えたか。判断したか。表情やしぐさ（行動）、発言、独り言、ノートの記述などから、目標に対しての子どもの思考過程を探ります。

<「子どもの学ぶ姿」からの改善>

「昨日は理解できたけれども、今日は分からないです。」と悩むA先生

A先生は、子どもが問題を正解して、喜んで評価していました。しかし、「子どもの学ぶ姿」を映像でじっくり見ると、問題からの思考判断ではなく、先生の表情や言葉掛けから、間違いだと思い、解答を変えていたということに気づきました。その結果、A先生は、「子どもが分かった」と評価したことが、本当に「分かった」ことなのか見つけ直し、授業を改善していった例がありました。

授業参観シート



事後検討で重要な役割を果たす

授業参観シートの例

子どもの学ぶ姿を想定し、授業を見ることで、「子どもの学び」の状況を捉え、授業に生かせるようになりますよ！



3 事後検討

□子どもの学ぶ姿の確認

子どもが「どの場面で」「何を」「どのように」「どの程度」学んでいたかをチームで確認することで、子どもは何をどのように学んだのかを評価することができます。また、論点を大きく逸脱することなく、話し合いが深まり、複数の目で見ること、一人の視点では気づかなかった子どもの学びをくみ取ることもできます。

ビデオ、付箋が役立ちます！

□学習内容・活動の見直し

個々の子どもの目標に照らして、学習内容や活動は適切であったのかをチームで検討します。

□授業者のかかわり、教材・教具の見直し

子どもの力を最大限引き出すための支援やかかわり、教材・教具について検討します。

授業改善の視点

この視点で考えると、自然に授業の質が向上していきます！



□子どもの目標の見直し

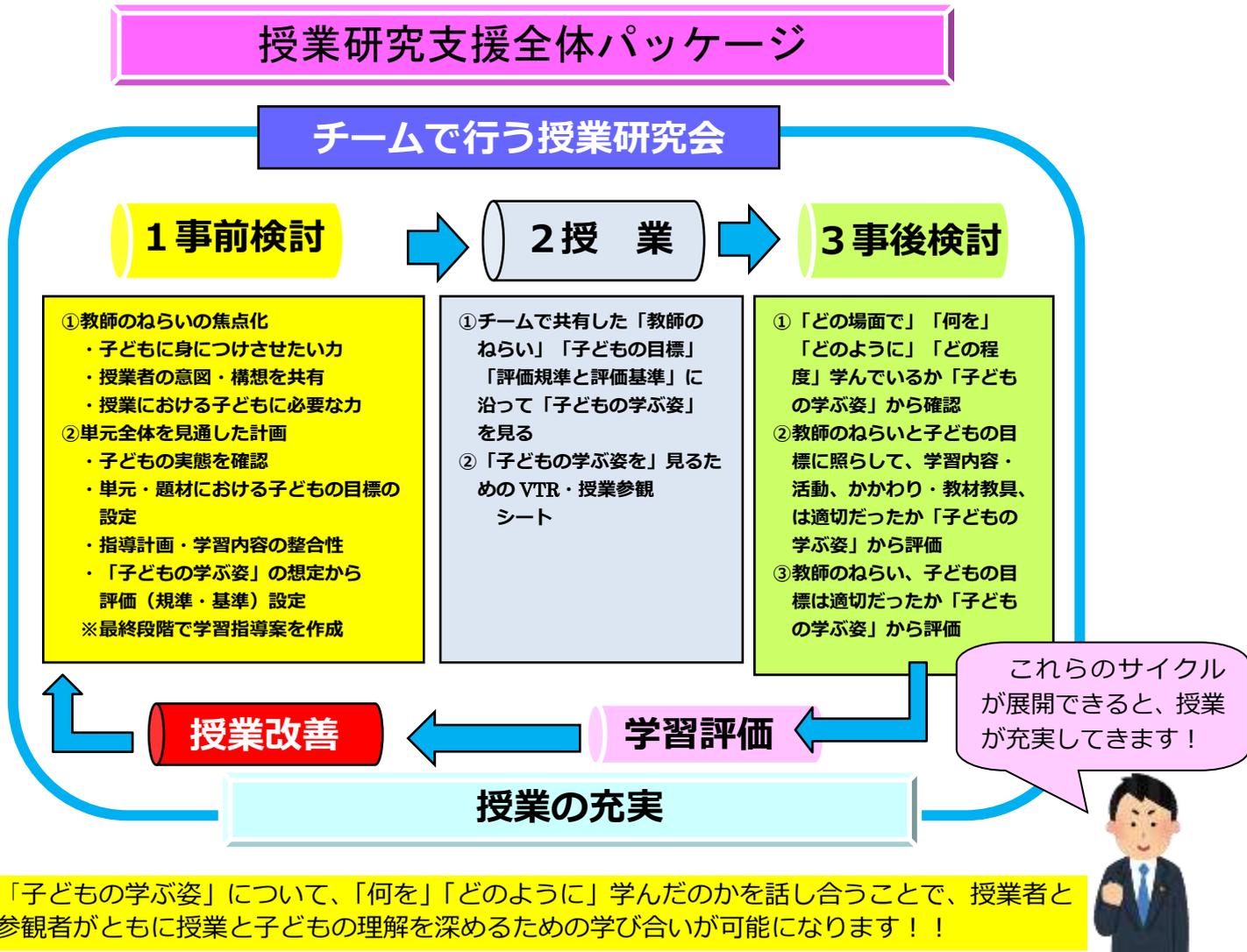
子どもの目標設定は適切であったのかを子どもの学ぶ姿からチームで検討します。これにより、教師のねらい、子どもの目標、活動内容の妥当性と整合性を図る力が養われます。



チーム内の経験や知識、専門性も共有されます！

日々の授業の充実！

これまでの説明をまとめると下図のようになります。



「子どもの学ぶ姿」について、「何を」「どのように」学んだのかを話し合うことで、授業者と参観者がともに授業と子どもの理解を深めるための学び合いが可能になります！！

まとめ

授業で大切にしたいこと

「子どもの学び」を考えた授業づくりで最も大切なことは、教師の思いだけ、又は子どもの思いだけの授業づくりをするのではなく、教員が期待する姿（ねらい）と子どもの姿（実態）をバランス良く重ね合わせていくことです。

そして、学びを成立させる上で、単元で扱う教材や学習内容は、どのように関係していくか、ねらいや目標と重ね合わせていくことで、授業での「子どもの学び」が、より明確になります。

そのために…



**チームによる授業研究会の充実が
日々の授業の充実と
専門性の継承につながります！**

平成24年・25年プロジェクト研究「チームで行う特別支援学校の授業改善の在り方」より抜粋しています。
 なお、詳しい内容については、研究紀要第27号プロジェクト研究I「チームで行う特別支援学校の授業改善の在り方」（平成26年3月）に記載してありますのでご覧ください。